

外国人と日本人とが、ともに豊かに生きる地域社会を!

# ハロー フレンズ



ふじみの国際交流センター  
Fujimino International Cultural Exchange Center

2019年9月号(年3回発行) 第151号

## Café ficec へようこそ

Café ficecは毎月第4の土曜日あるいは日曜日にオープンしている交流会のことです。

それぞれの参加者が持ってきたお菓子やお茶などを食べながら、おしゃべりをする、ただそれだけなのに、初めての人でも、どんな国の人でも仲良くなれる不思議な空間です。

Café ficecは今年5月から始めて、8月で4回目です。

日本へ来たばかりのオランダ人と中国人の国際結婚の夫婦や、ワーキングホリデーで来ている台湾の方、内モンゴルから来た夫婦、来日してから20年以上も生活している中国のお友達2人など、毎回いろいろ国のいろいろ話が、いろいろな言葉で交わされます。

出来たばかりの交流会で、まだまだ宣伝も足りず、「今日は誰も来なかったらどうしよう…」と不安になりますが、センターで待っていると、一人、二人と集まりはじめ、終わる頃には、にぎやかになっています。

9月は「富士見市国際フォーラム」が開催されるため、Café ficecはお休みです。

次回のCafé ficecは10月27日(日)午後2時からです。外国の方も日本の方も大歓迎です(日本の方は事前に参加申込が必要です)。参加は無料です。お菓子や飲み物などを持ってきていただくと嬉しいです。沢山の皆さんの参加をお待ちしております。



### 第22回通常総会のご案内

日時: 令和元年11月17日(日) 午後1時半から5時

場所: 上福岡西公民館集会室〔ふじみ野市上福岡5-2-12〕

日頃のFICECの活動を知っていただく機会となるよう、総会では各担当者が2019年度の事業について報告いたします。ご支援をいただいている会員のみなさんはもちろん、関心のある方もぜひご出席ください。

## 日本語教室ボランティアのアンケートから

日本語教室って何を教えているんですか？私でもできるんですか？とボランティア希望の方からよく聞かれます。FICECの日本語教室がスタートして今年で23年。その間たくさんの学習者と日本語ボランティアの出会いがありました。古くから教えているスタッフが、特に思い出に残っているのはお正月に学習者とボランティアのみんなと一緒に川越の七福神めぐりに行った(それぞれが好きな所に行ってしまう迷子にならないか心配した)ことと、新聞配達途中に事故で亡くなった学習者のお葬式を出したことだそうです。現在日本語を教えてくれている皆さんに、日本語ボランティアについての思いを聞いてみました。

### ①日本語ボランティアを始めたきっかけは？

市役所の外国人在留資格に関する相談員をしていたときに、研修会で石井理事長の講話を聞いて／ボランティアが足りないときに、何もわからずぶっつけ本番で日本語を教え、それがとても楽しかったので、それから10年以上続けている／FICECのHPを見て(同回答3件)／海外から帰国し外国人に恩返しをしたいと思っていた矢先、日本語教室ボランティア養成講座があり、それに参加した／自分の生活に時間の余裕ができた、外国の人とふれあう機会があったらいいと前から思っていた、自分にできる範囲のボランティアを探していた、日本にいる外国の人に少しでも役にたちたかった／息子の友達のお母さんがFICECのことを教えてくれた／子どもが幼稚園に入り、少し時間が取れるようになった／日本語を必要としている外国人に出会ってしまった／センターを立ち上げる時、大井で日本語教室を実施していた経験を生かし同様のものを設立することにしました。日本語指導の勉強をした経験を生かし、担当となりました。

### ②日本語を教えるときに心掛けていること

テキストに沿って教えるときに、具体的な例を追加して理解を深める。その人が必要なことを教えるようにしている。季節や風土に合った話題で、対話する／不安そうな顔で日本語教室のドアを開けた外国人が、帰りは笑顔で帰れるように、笑顔で両手を広げるような気持ちで、学習者を待っています／日本語を学ぶ事が楽しいと思ってもらえるように、各々の方に寄り添う様に心がけている。また、自分も色々学ぶ事が出来、楽しい時間となっています／学習者の身近な生活に即した例文を沢山示し、楽しく、使える日本語と心掛けています／楽しく学習者と接すること。自分が、相手の立場(外国語を学習する立場)になって接すること。相手の表情が緩む雰囲気をつくること／学習者に対してははっきりと、わかりやすい日本語で話しかけるようにする／相手のニーズにできるだけ合わせられたらと思っています／テキストの内容をなぞるだけでなく、会話の練習を入れるようにしている／相手が必要としている事をくみとり、できるだけそれにその内容を教えるようにしている／初めて来た人でもすぐに使えるような簡単に便利な言葉を教える／日常会話は積極的に耳から取り込むことが身につける近道と考えています。様々な日本語指導者の表現に耳を傾けることを進めたい。常に学習者をリスペクトするよう心掛けます。普通の社会人として対応していきます。

### ③面白かったこと、印象に残ったこと

出身国の風俗や習慣と、日本のそれとの違いについて話し合ったこと／国へ帰ったり、仕事の都合で日本語教室に来られなくなった学習者が、数年たっても、また会いに来てくれることがとても嬉しいです／ことわざやオノマトペ等各々の国の言い方があり、面白い。また、年越しそば作り等の時、日本の文化を体験出来て楽しいと言ってくれる方が多く、よりリラックスした表情が垣間見えて嬉しく印象深い。その他、非常口や救急時、火事、災害時等の不測の事態の対応についてほとんど知らない人が多くちょっと心配／日本語を教えると共に私自身も日本語を鍛えられ、また外国のことも学ぶことが出来るのが面白いです／学習者と雑談しているときに、子育ての大変さはどの国でも同じなんだな、と思う瞬間がある／一生懸命勉強しようとしている姿を見ると、自分もがんばらなきゃと思えます！／同じ人を何度か教えているうちに日本語がだんだん話せるようになってくる過程を見られたときは、うれしい。2時間の学習が終わって、喜んでもらったときは、うれしい／子どもが同じ年頃のお母さんが、日本人の友達がほしいと仰っていたこと。少しでも日本での生活の助けになればと思います／日本のアニメが好きな若い人がとても多い／能力テストに合格し、帰国し日本語を活かした生活をしている事を知らされた事／人々の住む環境での違いを知ると面白さが増幅されます。特に食材の違いで、日本では日頃食べないものが出てくるのも面白いですね。



## 今年憧れだった看護師に

イルファ サタール

私は1999年12月、当時4歳の時に日本に来ました。ひとつ上の姉はその翌年の4月からすぐに小学校へ入学。私は家にいて日本語はもちろん話せませんでしたが、毎日学校へ通い、FICECの先生方につきっきりで日本語を教えて貰っている姉が家で日本語を話したり、休みの日は私もFICECの先生方に日本語を教えてもらったり、日本のテレビを一緒にみているうちに自然と日本語が話せるようになっていました。姉は日本語を全く知らない状態で小学校で勉強していて、すごく大変そうにしていた記憶があります。自分が日本語を覚えるのに不自由なく覚えられたのは、姉との会話やFICECの先生方が丁寧に教えてくれたからだと思っています。特に森田さんには本当にお世話になりました。

姉弟で日本語が不自由なく話せても大変だったことがあります。それは両親とも読み書きが得意でないため、学校でもらう書類の内容が分からないことでした。簡単に書いてあるものなら私たちが読んで必要なことをしましたが、小学生ではわからない難しい漢字や単語は意味が分からずとても困っていました。そんな時に家が近くにあった森田さんが、書類とかわからないものがあれば家に来てねと言ってくださり、学校の帰り道にあった森田さんの家に学校でもらった書類をそのままみてもらって記入してもらったり、ついでに読み聞かせなどの宿題もみてもらって家に帰ったりしていました。学校ではどうかなど、お話も聞いてくれてすごく嬉しかったです。

当時私の、通っていた学校には外国人は少なく、私の兄弟かハーフの子がひとりくらいしかいませんでした。外国人は珍しいからか、いじめにもあったことがあります。1番ひどかったのはふでばこに足を切ったムカデを入れられたことです。でも学校で大変でもFICECの先生方やそこに通う子どもたち、姉弟が多かった私は特に気になりませんでした。外で遊ぶのが好きではなく、あまり友達のいなかった私は本を読むのが大好きでした。FICECの先生たちに教えてもらって漢字は大好きだったので、分からない漢字はあまりありませんでした。

中学生になり、母が肝臓の病気を患いました。先生達との会話は難しい単語が多く母はわからなかつ



たので、私が通訳として付き添いで通いました。その頃に、不安な自分たちに優しく接してくれた看護師さんに憧れを持つようになりました。高校生になり将来を考える時期に、自分が本当に看護師になれるのか不安でした。なんとか看護学校に入学し、勉強が大変だった頃FICECに遊びに行った時に大変なことを打ち明けると、看護資格をもっている戸塚先生が自分の経験談を話してくれたり、よく頑張ってるよ、わからないことがあったら言ってねと言ってくれました。

そして学校に4年間通い今年の2月に国家試験を受け看護師になることが出来ました。今は看護師1年目として働いています。ほんとに大変ですが、まさか自分が日本で看護師として働いているなんて日本に来たばかりの自分は夢にも思っていなかったです。FICECは物心ついたときから傍にあり、あたりまえの存在でした。右も左もわからず、難しい日本語を理解できない外国人からすれば無料で丁寧に教えてくれるし、日本語の勉強を頑張っている仲間も作れる、ほんとにありがたくアットホームな場所だと思います。なかなか忙しくて、行く機会は減りましたがすごく感謝しています。



スタッフ紹介  
『平成』から『令和』へ  
小林 和恵

今年の3月から月曜日担当のスタッフとなりました小林和恵です。

まだまだわからないことが多いのですが、先輩スタッフの皆様にご助けいただきながら楽しく活動をしています。

思い起こせば、『昭和』から『平成』に元号が変わった年、私はまだ学生でした。

その後、就職、結婚、子育てという環境の変化の中で時間に追われていたことが、私にとっての『平成』だったような……。仕事と家事という「やらなければならない事」をこなしていく毎日の中では、自分自身の「やりたい事」を考えている時間もあまり無かった

のかと思います。気がつけば、あっという間に娘が高校生になっていました。娘と進路の話をしていた頃、自分自身の将来もなんとなく考える時間がもてるようになり、私も「やりたい事」をしようと思い、娘の大学進学を機に20年間務めていた職場を退職しました。

退職した翌月には、なかなか行くことの出来なかった海外旅行をしました。その後も何度か海外旅行をしていますが、毎回語学の壁に悩まされているため、英語を趣味として始めたことでFICECを知ることとなりました。最初は、週に一度2時間位のボランティア活動でしたが、今では、週に二度のボランティア活動の他、イベントや交流会等にも参加しています。

ボランティア活動、3年前から続けているヨガ等、毎日忙しく過ごしてしていますが、「やりたい事」で忙しい日々を送れることに感謝し、令和元年という節目の年に心機一転、ボランティアスタッフとして頑張っていきたいと思っています。



「私の故郷 心の中の楽園」 王 宇濼

広大な草原があります！香り高いクミス(馬のミルクで作った酒)があります！温かくもてなしてくれる人がいます！そうです！それが私の故郷内モンゴル自治区です。内モンゴルは美しい景色と豊富な資源、美味しい食べ物があります。内モンゴルの草原の草はとても背が高く柔らかいです。草原に横たわると、そこは波打つ緑の大海原のようです。馬は草原の風のように疾走し、羊は空の上の雲のように草原で遊牧されています。

春になると、すべてがさわやかで暖かく、そして花が咲きみだれます。私達は春の香りに酔い、それは優しく私の心を満たしていきます。春は無垢な少女の笑顔の輝きでやってきて、その春の象徴の訪れと共に遊牧民はふわふわした羊の毛を刈ります。毛を刈るのは羊だけではなく、全ての動物も毛のジャケットを脱いで春の日差しを浴びます。軽快な音でやってくる春の風はまるで草原の賢い少女。少女は草原を緑に変えるリボンを手に、羊たちの群れがいる草原を渡り、一瞬にして老婆の如く白髪だった草原は、またたく間に祝宴の緑へと変わる。春の女神である少女は広大な松森の中に立って、自然が奏でる美しい調べを静かに聞いています。

内モンゴルの夏の天気は非常に神秘的です、晴れていたと思えば、突然大粒の雨が降ります。それでも農家の人々は作物を世話するのを止めません。彼らは休みなく水をやり、そして肥沃な大地になります。こうして彼らの仕事は作物の成長と共に増え、ますます忙しくなっていきます。農家の人達は勤勉に働き、作物を世話することが実りの秋をもたらしてくれると信じているからです。

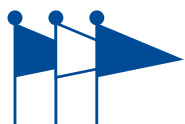
秋は収穫の神であり、人々に実りをもたらします。

果樹園には赤いりんご、オレンジ色の洋梨、オレンジ、赤い柿がなります。人々はトラクターを運転し、大きな車で収穫物を運びます。

そして季節が冬に入った時、内モンゴルは純粹で透き通った雪でおおわれます。一面が銀世界になると、内モンゴルの人々は長い休暇に入り、家の中でそれまでの労をねぎらうように飲んで歌って暮らします。この時季にあなたがゲストとして私の故郷に来れば、情熱的なその家の主人があなたをもてなすために、内モンゴルの厳選された子羊、牛乳豆腐、牛乳のお茶とその他の美味しい名物料理で饗応してくれることでしょう。あなたは美味しい食べ物を沢山食べて、心も身体も満たされるでしょう。

「湖の反射は青空を映し出し、牛と羊は背の高い草の中に安らいでいます。」私の故郷は真珠のようで、祖国北部を照らしています。私の故郷に誰が来たとしても、私はいつも彼らを手厚くもてなし、彼らはきっと自分の故郷に帰った後も、私の故郷内モンゴル自治区での素晴らしい時間を思い出し、また行きたいという気持ちになるでしょう。





いつも応援しています



小林久美

私の職場の近くには小学校があって、出勤途中、登校班の子どもたちと一緒にすることがあります。外国籍だと思われる子どもの多いこと！国籍も様々です。それだけではなく、最近はタイ人の若者もたくさん見かけます。

2年前には職場のパートさんが韓国系中国人の方でした。家の裏のアパートにはアフリカ人がたくさん住んでいて、毎晩、賑やかすぎて、ちょっと近所迷惑…。でも、大きな声で笑いあっているのを聞くと、ちょっとうらやましい時も。

いつのまにか、ふじみ野市も国際色豊かになりました。

話は変わりますが、ナナエさん(理事長)の言葉でとても印象に残っていることがあります。「人権講座

の講師を頼まれて、多文化共生とか、人権とか言ってもなかなか理解してもらえない。だから外国籍市民もきちんと働いて納税してもらいましょうと言った方が理解される」と。ちょっと違ったかもしれませんが、外国籍でも地域の市民として生きていけるように、日本語教室や子どもたちの勉強をサポートすることの大切さが伝わる、印象に残る言葉でした。

今回、マンスリーサポートが始まったのを知り、あの時のナナエさんの言葉を思い出しました。「子どもたちが、進学や夢を叶えるためのお手伝いができる！」と思い、早速申し込みをさせていただきました。活動に参加するのは難しいのですが、こんな風にお手伝いできて嬉しいです。

これからもぜひ応援させてください。

## 報告

## 医療通訳研修会

[基礎コース2019年7月14日、2時～4時]

当日は現場で医療通訳の重要性を肌で感じている看護師、経験豊富な通訳者、またこれからより一層力をつけて貢献していきたいという通訳者の方々など、計14名の参加で研修を開催しました。受講者の全員がとても前向きで、医療通訳に対する意欲と熱意が強く感じられた研修会でした。次回は仲間を連れて参加したいと言っていた看護師の方、また医療通訳の経験豊富な受講者からも多くの苦労話を聞くことができました。今回の医療通訳研修会はふじみの国際交流センター(FICEC)での初めての試みでしたが、今後も継続していきたいと思っています。では研修内容をすこしお伝えしたいと思います。

## 医療通訳者が足りない!!

現在の日本には、かつてないほどの外国人が暮らしていて、これから益々医療通訳の需要は高くなることは確かです。しかし、現状は医療通訳者の数がまったく足りていません。医療通訳者が常駐している病院は稀です。

同行通訳を提供しているFICECで一人でも多くの通訳者に医療分野で貢献していただきたいという思いで今回の研修会の開催にいたりしました。

## 研修会前半 — 倫理、語彙力

前半を倫理、仕事内容、事前準備、病院での対応、通訳リスクについての病院側の立場などを研修し、医療

ギャレット三宅万里子



通訳の仕事内容である検査、診察、手術、出産にいたるまでの幅広い医療知識と語学力が要求されることや、依頼を受けた時点で、医療語彙のチェック、依頼者の国籍、宗教、文化等の背景の事前の予習が必要などの研修をした。

研修会後半 — 患者、医師、通訳のロールプレイ  
様々な患者の病状のケーススタディを提供し、それを元に、3人一組になり、医師、患者、通訳の役になり現場体験を演じていただきました。その中で医療専門英語の確認や質問等に応じて、全員良い体験ができたと思います。これからも益々医療通訳を目指していきたい等々、とても前向きなフィードバックをいただきました。自己研鑽、国際交流、社会貢献などみなさんの熱意が強く感じられる研修会でした。

## 令和維新となりうるでしょうか

FICEC 日本語教室担当 岩田 仁

先日の新聞に、ラグビー日本代表の主将リーチマイケルさんの言葉が有りました。「日本代表選手の中には、日本に帰化した人も多い。かつての母国と対戦する時に本当の実力が出し切れるものでしょうか」の質問に、「江戸時代日本は鎖国政策をとっていました。しかし開国後海外から多国文化を取り入れ世界の仲間入りを果たしました。明治維新です。私たちもいろいろな国が混ざり合っているからこそ強くなれるのです」

昨年12月成立の「改正出入国管理・難民認定法」が4月1日施行、引き続き新在留資格14種の「特定技能」も誕生しました。

5年後には345,150人の外国人を新しい経済の担い手として受け入れると言います。

政府は受け入れ対策として「日本語教育の推進に関する法律の施行」という文書を全国関係部署に配布しています。

文化庁まとめのこの文書は外国人対応へのきめ細かい説明が多岐にわたりなされていますが、私たちが特に関心を持つ部分は基本理念を語る第3条の文言です。

「日本語教育を希望する外国人に対して、その機会が最大限確保されなければならない」

また基本理念(7)連携の強化の項では、「生活支援を行う団体等の関係者間の連携強化と体制の整備に努めること」と続けます。

この1文に注目したいと思います。多彩に活動する地域の日本語教室は、政府が標榜する“生活者としての外国人”の生活の現場がそこにあるのです。

私見が許されるならば、こう申し上げたい。

文化は環境から生まれます。言語もまた然り。

生活者としての言語はそこに住む環境、現地、現場での言語をまず身につけることと考えます。

生活言語を短時間で身につけられる地域の日本語教室は、ICTが目指す学習とコミュニケーションの場です。また日本語教育の空白地域を埋める重要なポストも担っていることも自覚しなくてはならないでしょう。“生活者としての外国人”の導入と言う、新世紀に入った今こそ令和維新推進の起爆剤として地域の日本語教室の声が求められています。

(註)「外国人」の表記は、文化庁の文言に合わせてみました。

## 見送りの3振より空振りの3振 パートⅡ 石井ナナエ

○月○日

白雪姫の絵のアルミ製のお弁当箱に朝ごはんの残りを詰める。娘が幼稚園時代に使っていたお弁当箱で、いつしか私のトレードマークになってしまった。昔と変わらず体形は小太り。お陰で20年まえの洋服とリサイクル品を着まわしている。帽子を深くかぶり手袋をしてサングラスをかけ出発準備。鏡をのぞくと白雪姫に毒りんごを渡したおばあさんがいた。気温35度、湿度50%の中を娘たちが買ってくれた電動自転車に乗ってセンターに向かう。同級生に「石井さんは教養(今日しなければいけない用事)と教育(今日行く所)があっていいね」と言われるが、その通りだと思う。FICECの用事がなければ多分毎日家に閉じこもっているだろう。今日ほどこの国の人がかかるかしら。こんな生活をしていれば2000万円なくても当分暮らしていけそうだ。

○月○日

「夫がゴミ出しをしてくれない。こんな汚い家で子育てはできない。離婚したい」と中国の女性が相談に

来た。妻に逃げられてしまったという夫からの相談も多い。女性が強くなってきているのかしら。このほかにも、生活保護費が少ないとか、仮放免だが仕事を探してほしいとか、自分勝手な相談も増えている。日本の法律に触れるようなことはしたくないので、どうにもならない相談事もある。来週は入管法改正の学習会がある。たくさん勉強しないと。大勢の人に支援していただいているのだから。

○月○日

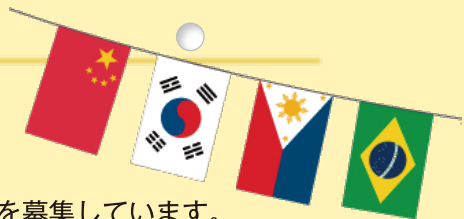
サプコタさんと「外国人労働者」について熊谷に講演に行ってきた。サプコタさんの話はたった10分。お休みの日は何をしているのと聞かれると、FICECに行きますと答え、困った時はどうしますかと聞かれると、FICECに行きますと言う。時間ができると何をしますかと聞かれるとFICECに行きますという返事。外国人労働者問題の結論が、『県内あちこちにふじみの国際交流センターを作りましょう』になった。

8/3 七夕まつり参加



8月3日(土)、上福岡中央公園で七夕祭りの模擬店を出しました。多くのスタッフが参加しました。「子どもパチンコ」が子どもたちに大盛況でした。冷たい飲み物とフィリピンの遊び「ジャックストーン」と韓国の遊び「チェギチャギ」も販売しました。

同行通訳ボランティア募集中



ふじみの国際交流センターでは、下記のように通訳ボランティアを募集しています。関心のある方の連絡をお待ちしております。

募集言語：ベトナム語、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語、フランス語、中国語、ネパール語、英語

通訳内容：東武東上線内の学校、病院、役所などでの通訳支援

☆日本語ができる外国人の方・外国語が流暢な日本の方お待ちしております。

☆連絡先：TEL049-256-4290(月～金10:00～16:00)

広告



Organic & Natural foods store

おいしいはしあわせ **サン・スマイル**

創業22年  
オーガニックや無肥料栽培野菜、お米、雑貨、衣料品、コスメ、書籍など2500種類以上の商品と、元気いっぱいの笑顔でお待ちしております！

- 営業時間 10:00-19:00
- 定休日 日曜日(祝日営業)
- 住所 埼玉県ふじみ野市苗間1-15-27  
(ふじみ野駅西口から徒歩7分)
- 電話 049-264-1903



○お店の広告を出しませんか？詳しくはFICECまでお問い合わせ下さい。

FICECの活動をご支援ください  
**会員・賛助会員・寄付のご案内**

●活動を担う会員…正会員

正会員は、スタッフなどとして活動を担っていただく会員です。この会員は、総会などでの議決権をもちます。

年会費: 個人1口3,000円、団体1口10,000円

●FICECを財政的に支える会員…賛助会員

賛助会員は、FICECを財政的に支えていただく会員です。総会等での議決権はありませんが、FICECのイベントなどのご案内や、機関誌をお送りいたします。

年会費: 個人1口3,000円、団体1口10,000円

会員、賛助会員にはこの機関誌をお送りします

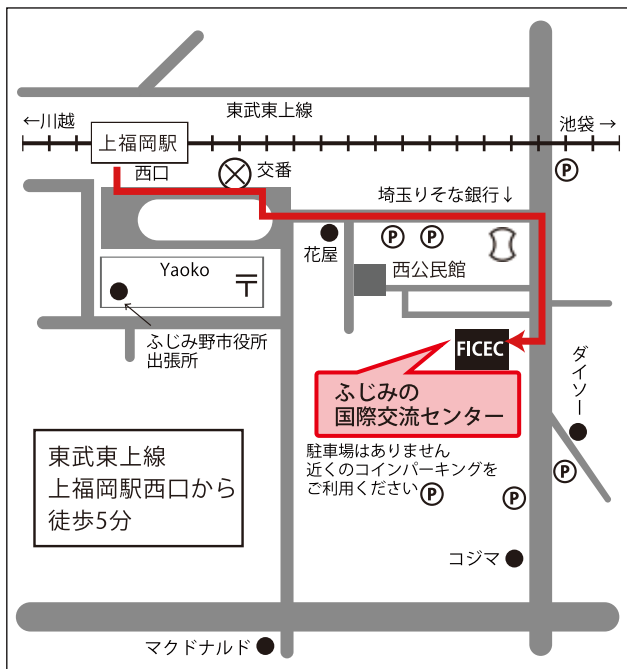
郵便振替口座: 00110-0-369511  
 口座名: ふじみの国際交流センター

**外国人生活相談 無料**

月曜日～金曜日 10:00～16:00  
 電話: 049-269-6450

困っている外国人の方がおられたら  
 FICECをご紹介ください。

※コピー代など料金がかかる場合があります



埼玉県指定・認定特定非営利活動法人  
**ふじみの国際交流センター**  
 〒356-0004 埼玉県ふじみ野市上福岡5-4-25  
 TEL: 049-256-4290 FAX: 049-256-4291  
 生活相談専用電話 049-269-6450

**ご寄付をいただいた方々**  
 ご支援ありがとうございます

●2018年8月1日～2019年8月15日(敬称略)

〈団体〉丘亜蘭、立麻医院、田村工務店、東入間地区遊技業防犯協力会

〈個人〉新井良司、石橋勝、上島直美、午込亜紀子、江科、江釣子孝一、尾浦邦彦、大津エミリ、大津さよ、大場弥太郎、大室昭浩、小川愛子、尾崎功、加藤久美子、加藤由里子、金子佐記子、狩野照乃、川井敏生、川口久子、神田順子、木場哲雄、木村不二雄、三宅万里子、樟山直美、熊谷洋興、栗島美千代、木場ひろみ、小林曉美、駒形一夫、権田貴久子、近藤知代、酒井有香、坂入智子、佐藤茂、佐藤義治、塩野 芳雄、芝山喜己子、島田敏郎、進洸子、高木志津子、高橋睦代、武田和子、立原悟、立麻肇子、立麻典子、田中つや子 近沢エルザ、チョン玄淑、チンテイパン、坪田幹男、寺村壁如、富田恵子、富田慎太郎、豊枝洋子、中川令子、仲野谷美恵、中村禎作、中山のり子、梶野憲太、南部英司、西川 力蔵、西山正浩、野沢弘子、野田恭三、萩原千代子、朴、長谷川雅恵、長谷川正江、林田信幸、早瀬継夫、半田栄子、久光陽太、深田四郎、福吉真那、保坂佐紀恵、星野真弓、松井和子、松下敏恵、祭、水井ロウピミン、ミン、村山光代、茂木久美子、森下理恵子、森田有美子、八重樫紀久枝、矢津美紀、山口満江、山崎友理、山畑博子、山本健一、山本ノテン、吉井ジュリエッタ、劉、渡漫邦枝

〈マンスリーサポーター〉石井幸夫、遠藤慧子、太田政男、小林久美、中島恵津子、中田好江、中山浩子、野辺頼之、藤井みどり、石井ナナエ

※埼玉県指定・認定NPO法人ふじみの国際交流センターに寄付をしてくださった方は、税金の優遇を受けることができます。

ふじみの国際交流センターサービス案内		
外国人 ゲスト派遣	国際理解教育	3,000円+交通費+事務費
	外国料理教室	5,000円(材料費別途)
講師派遣	多文化共生講座	20,000円+交通費 (活動運営のためご協力ください)
	ボランティア講座	
企画・運営	国際交流・国際理解に関するイベントや研修の企画・運営等	内容・予算に応じて相談
編集・出版	多言語による情報誌・ガイドブック・チラシなどの制作	
翻訳	婚姻関係、ビザ申請、履歴書	A4 2,000円/ページ
	その他文書	A4 3,000円/ページ
通訳	半日5,000円+交通費	
見学・研修(資料代として)	1,000円/人、日	

**ボランティア活動に、ご参加ください**

ふじみの国際交流センターでは、日本語指導をはじめ、生活相談・外国籍市民との交流・手助けをするボランティアを募っています。ぜひ、電話またはホームページから、お気軽にご連絡ください。